



変化と新生

千代田区立教育研究所長 佐藤 友信

令和2年2月末、新型コロナウイルス感染症が徐々に大きな広がりを見せる中、突然の休校要請。3月は卒業生にとって、自分の育ちを確認し、多くの感謝を伝える節目の時。至福の時。その時間は一気に奪われました。私も小学校で17年間、担任を務めた人間です。自分ならどうしただろうか、卒業生担任は同じ思いだろうか。そのような想いを抱きながら学校とともに、走り続けた3月でした。

年度が明け、私たちは人事異動による切り替えが困難な状況の中、子どもたちのために何ができるか、トライ&エラーを繰り返し、発信を続けてきました。学校から提出される学習課題に対し、子どもたちが課題をやりたがらない、ゲームばかりしている、といった報道がありました。あるオンライン研修時、熱心に授業研究を進めてきている先生からこんな話を聞きました。

「どうして、子どもたちは、自分から学ぼうとしないのだろうか。私たちは学びを丁寧に与えすぎたのかもしれない。今後、主体性が重要になってくる。もっと自分の授業によって子どもたちの主体性を育てるにはどうしたらよいか、ということをもっと深く考えるようになった。」

新学習指導要領は、知識注入型の授業からの脱却を示しています。この気づきは、教育の本質をとらえています。

若手研修の中で、3年目の先生に実践事例と日々の心がけを話してもらいました。分散登校を目前にして、子どもが登校してきたとき、どのような声掛けをしますか、という問いに、「もう私が、この現状に我慢ができないんです。会いたかったんだよ、という気持ちを素直に伝えると思います。」

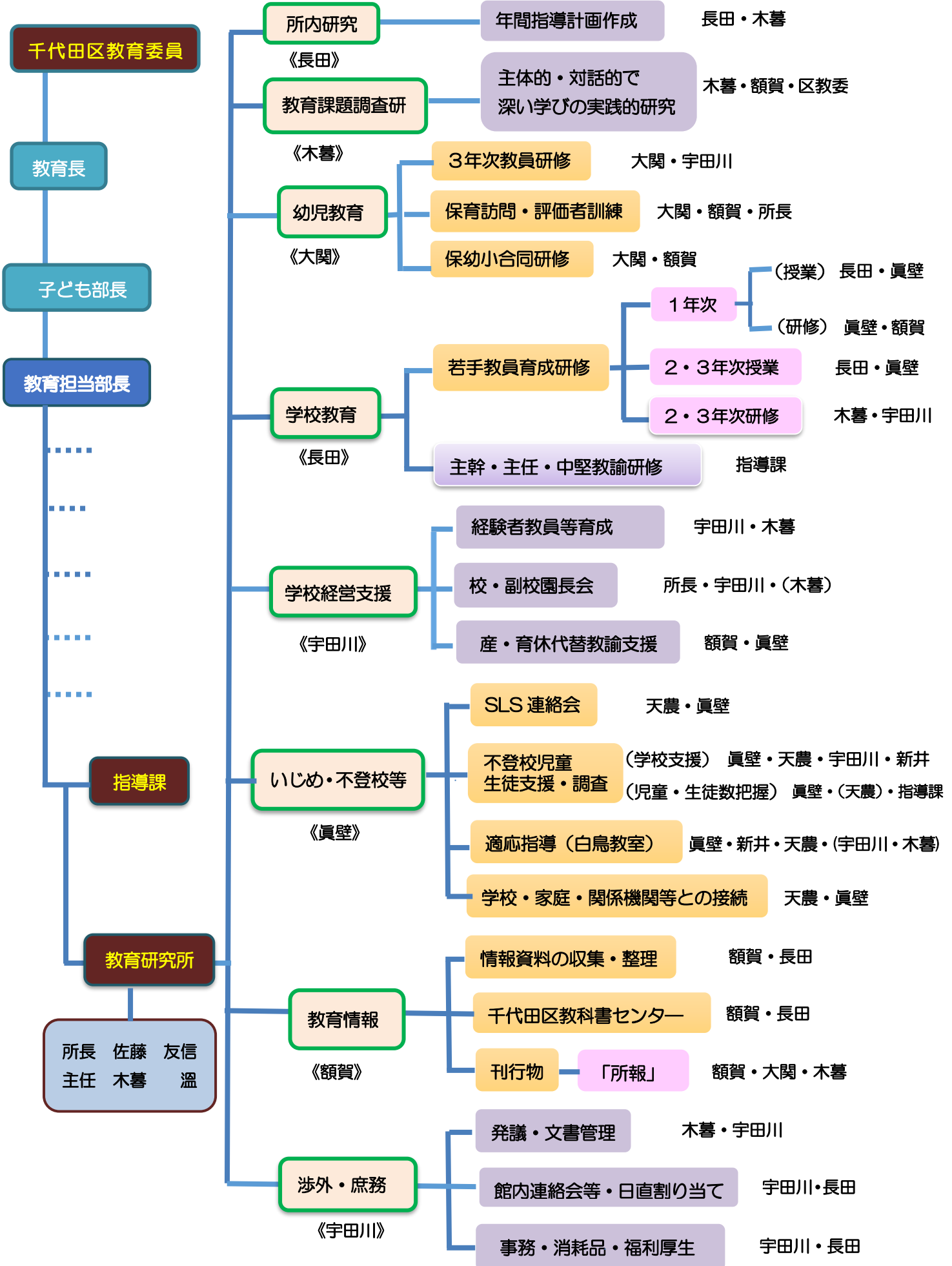
この未曾有の危機は、マイナスのことばかりではなかったはずで。

そしてプラスにできた人は、変化できた人、教育の本質を強く意識し続けた人、とどまらず行動できた人ではないでしょうか。

双方向型のオンライン学習環境を整える過程で、先生方の熱意あるアクションが見えてきました。子どもが家庭において自主的に取り組める課題を、校内で先生同士が工夫をし、その伝え方を研究する姿や、学校を超えて情報交換をするなど、子どもの反応を見ながら教材研究や指導方法に対する新たな取り組みが見られました。「つながりたい」という意欲が子どもからも保護者からも引き出され、信頼の絆が強くなっていくことを感じています。

私は、初任者研修で「スキルよりも意識、キャリアよりも熱意」と伝えました。私たち教育研究所は先生方の応援団です。子どもの学習者としての自立をめざして、より魅力的な授業づくりをめざして、チーム千代田をともに強くしていきましょう！

令和2年度 千代田区立教育研究所の組織と運営



I 研究

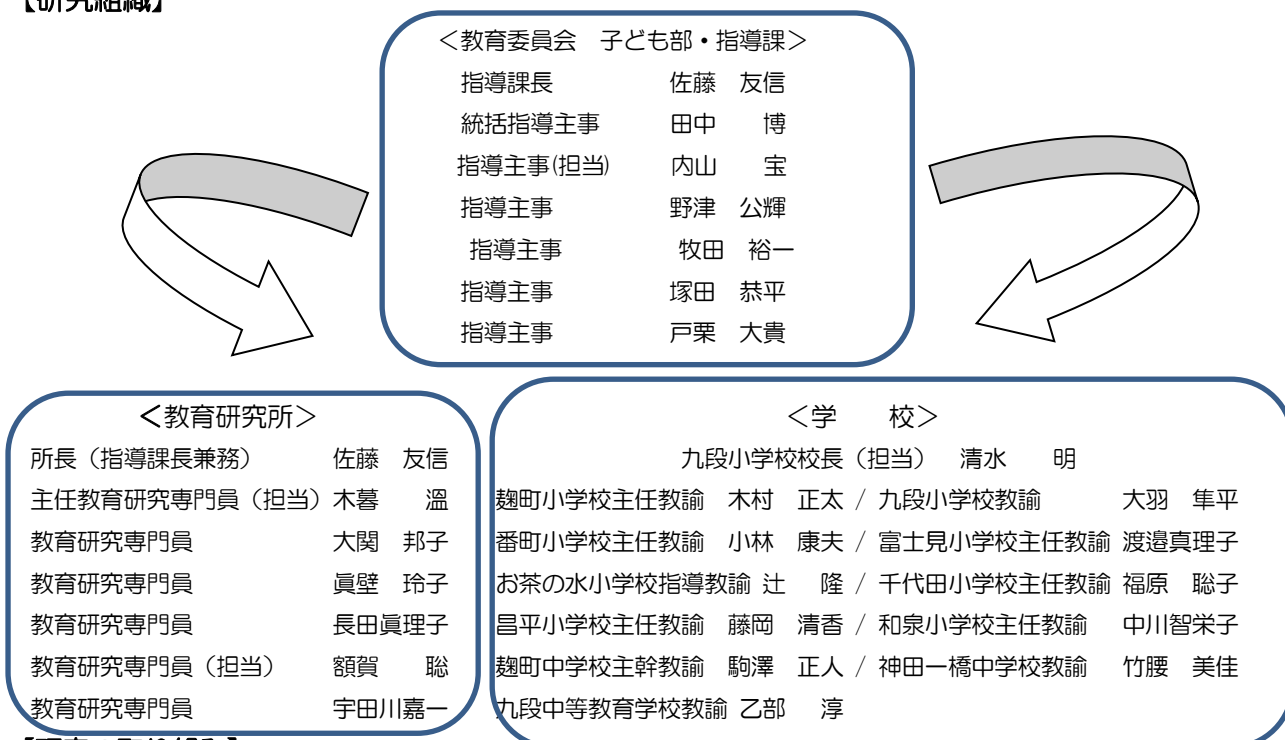
<教育課題調査研究>

【調査研究の目的】

千代田区の教育課題に関して調査研究を行うことにより課題解決を図り、その調査研究結果を学校教育に活用できる指導プログラムを作成し、その成果を区内各校に広めることにより、区の教育行政・学校教育の向上を図ることを目的としています。

3年計画のまとめの年にあたり、「これからの社会を自ら判断し生き抜く児童・生徒の育成」を研究主題として、ICTを効果的に利活用した主体的・対話的で深い学びにする授業づくりを目指して研究を進めます。

【研究組織】



【研究の取り組み】

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、4月は書面開催、5月はオンラインによる開催となり、2つの分科会を組織し世話人等を決定しました。2学期には、分科会の授業実践、2月には國學院大學教授 田村 学先生を講師として、研究発表会を予定しています。

<所内研究>

【ねらい】

本研究所員の資質・能力の向上を目指し、各自がテーマを決めて研究を進めるとともに、千代田区立学校・園の若手教員育成に関する指導、助言に資することをねらいとしています。

【内容・方法】

本研究所員それぞれの専門性を生かし、新学習指導要領に関する論文や専門誌等の記事(深い学び、カリキュラムマネジメント等)を取り上げ、レポート等にして発表します。そして、その内容を全員で共有し、話し合い深めていくよう実施します。

【計画】

年間9回(6月~1月)、月1回程度、各所員の研究テーマを基に行う計画です。今年度は、第1回目に、『学校・家庭と研究所の連携で育てる豊かに関わり合う心~特別の教科「道徳」の実施にあたって~』をテーマに講義・演習を行い、全所員で「考え議論する道徳」を体験し学び合いました。

今後は、「スタートカリキュラムのデザインとマネジメント」や「特別活動の授業と評価」について、また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に役立てるための「プログラミングの体験」「読書活動の充実」について等をテーマとして実施していく予定です。

Ⅱ 研 修

＜幼児教育＞

◇保育訪問

各園の要望や課題に応じ年 2 回程度、教育研究専門員が園を訪問します。今年度は 6 月の園再開に合わせ、臨時の保育訪問をしました。休園中、各園で郵送、電話、通信での手紙や教材の配布、動画の配信など工夫し、幼児・家庭との連携に努めたことが、6 月からのスムーズな登園につながったと感じました。保育訪問では、長時間保育や 2 年次教員の保育観察、園の環境構成などの課題について、共に考えながら、千代田区の幼稚園・こども園の実情に即し、少しでも幼児教育の充実につながるよう努めていきます。



▲間隔をとり並ぶための表示

◇若手教員育成研修 幼稚園・こども園（3年次）

実施要綱に基づき、過去 2 年間の研修成果を踏まえ、研究保育を中心とした実践的な研修を実施します。今年度は、3 名の教員が対象者です。

＜研究保育＞

ねらいを「一日の保育を振り返り、次の保育の指導に活かす能力を身に付けよう」とし、具体的な方法として、「日の記録の工夫」に着目します。研究保育時の映像を見ながら多様な幼児理解に努め、研修生の保育の資質向上につなげます。

＜自園教諭の保育を見て学ぶ＞

各園で、学びたいと思う先生の保育観察を行います。園では、一人一人のよさを活かした保育が展開されています。そのよさを園で共有します。

1 回目と最終回には講師を招聘し、幼児理解や記録の重要性を知り、保育と理論付けた研修を実施します。今年度は第 1 回目の全体会をリモート研修の形式で開催しました。今年度配布されたタブレットを保育や研修に活かす新たな方法を模索していきます。



▲オンライン研修

＜小中学校教育＞

1 年次研修

東京都の若手教員育成研修実施要綱に基づき、区立学校に配属されている初任者及び新規採用教員に対し、教員としての基礎的・基本的な力を付けるため、指導課と連携して研修を実施します。

○校外における研修 半日 11 回

4 月は新型コロナウイルス対応により 中止し次回以降に振り分けました。

第 1 回 5 月 7 日は、教育研究専門員の講義「新任教員としての心構え～笑顔で子どもの前に立てるように～」を動画で配信しました。

続いて佐藤友信指導課長が演題「ACTION!」でオンライン研



▲佐藤指導課長の講話



修を行いました

た。教育の原点は「信頼」、キーワードは「見る・聴く・綴る・伝える」等の講義でした。

第 2 回 5 月 25 日は、番町小学校の山口主任教諭と横田教諭による講話の動画を視聴し、教育研究専門員が「講話で学んだこと・授業に生かしたいこと」をオンラインでまとめたり、「指導と評価について」講義を行ったりしました。研修生から、「質疑応答や自分の考えを述べる機会があり、様々な視点からの意見を聞き、考えることができた。仲間の姿に刺激を受ける場面が多々あった。」等の感想が届けました。第 3 回以降も初任者の指導力向上に結び付くよう工夫していきます。

○若手教員訪問 1 回

新型コロナウイルス対応で分散登校が始まった 6 月に、各校園に教育研究専門員が訪問しました。子どもの安全を第一に頑張っている、若手教員のお話を伺ったり助言したりしました。

○校内における研修の「授業に関する研修」1 セット 3 時間×3 回

1 学期(7 月)は、初任者として学級経営等の充実が図れるよう「教室訪問」を行います。主として学級経営の相談にのるとともに、教師と子どもの関わり方や授業力の向上をねらいとしています。

2、3 学期は、指導案の指導、授業参観、事後協議会を行い、初任者の授業力向上を目指します。

2 年次研修

初任者研修を修了した教員が、授業研究を通し、授業のねらいを明確にもつこと、児童・生徒主体の問題解決型の学習を意識すること等の「授業力」の基礎を集中的に身に付ける研修です。さらに、東京都教員人材育成基本方針に示された教員に求められる力の中の「学習指導力」「生活指導力・進路指導力」を中心とした、実践的な指導力の向上を図っていきます。

教育研究所における半日研修は下表のとおり3回実施し、指導力や校務遂行の力を高めます。

実施月日		活 動 予 定
1	5月22日(金) *4月22日より変更	<ul style="list-style-type: none"> ・開講式 ・2年次研修に向けた自己の課題の設定 ・講話「学習指導の理論と実践」
2	8月 3日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「特別支援教育の理解と実践」 ・講義と演習「学習指導案作成の課題と解決」 ・講義「主権者教育の推進」
3	2月25日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「特別活動と学級経営」 ・研修生プレゼンテーション「自己の課題と更なる授業力の向上」 ・閉講式

半日研修の第1回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対応により、日程を1か月遅らせて、Teams によるオンライン会議形式の双方向の研修を実施しました。

事前に、番町小学校：山口 孝主任教諭と横田 朋教諭の対談形式の講話「学習指導の理論と実践」を視聴し、『主体的・対話的で深い学び』を意識した授業づくり等の事前課題を作成してから研修に臨みました。初めてのオンライン研修でしたが、2年次の研修生自身がアクティブラーナーとなって、オンライン上で次のような積極的な意見交換がなされました。



▲対談形式のオンライン講話

- ・単元計画を立てる際、学習のゴールを明確にし、ねらいや意図をもたせて取り組む。
- ・学習を通して、何を身に付けたいかを自分の言葉で説明させていく。
- ・3年生の担任となり、初めての社会科の学習があるので、子どもたちに地域のよさを伝えられるよう、神田明神や靖国神社を訪れ、自分自身がこの街のよさを学んでいけるようにしたい。
- ・計画を立てる際には、発問や板書計画を練って授業に臨んでいくことを心がける。
- ・コロナの影響で、教育課程や行事など見通しが立たない状況になっているため、学校全体や学年として協力して運営していくことが増えると思われる。考えたことや気づいたことを積極的に発信していきたい。
- ・2年次教員として、生徒や保護者から信頼される教員になりたい。そのために、教員間の情報共有を密に行い、自分一人では気づけなかった生徒の機微を捉えながら、個々に合った支援をしていく。
- ・生徒が個々の学習目標を立てて授業に参加できるよう、到達目標を明確にし生徒と共有する。

3 年次研修

2年次研修の成果と課題を踏まえながら、授業研究を通し、授業のねらいの達成と適切な評価、言語活動の充実に向けた授業展開、思考力・判断力の育成等の「授業力」の充実を図ることを目的とした研修です。さらに、東京都教員人材育成基本方針に示された教員に求められる力の中の「外部との連携・折衝力」「学校運営力・組織貢献力」等の課題解決力の拡充を図っていきます。

教育研究所における半日研修を2回実施し、指導力や校務遂行の力をより向上させます。

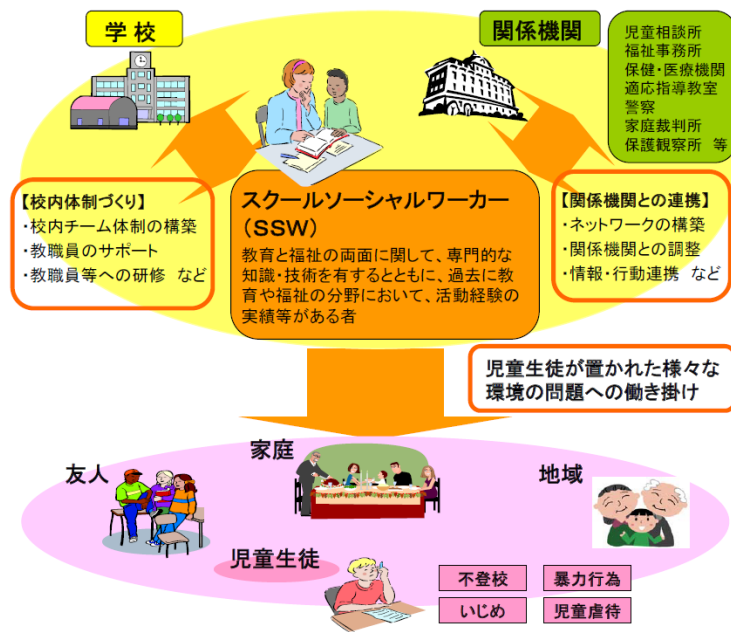
1	8月 4日(火) *4月28日より変更	<ul style="list-style-type: none"> ・開講式 ・3年次研修に向けた自己の課題の設定 ・講義「学校と関係機関との連携 ～不登校、虐待を中心に～」
2	2月12日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「学校経営への参画、組織貢献の在り方」 ・ミドルリーダーに向けた自己の課題の設定 ・閉講式

Ⅲ 連携

<スクールソーシャルワーカー (SSW) >

スクールソーシャルワークは、子どもを一人の人間として尊重することに価値を置いて、子どもの成長や最善の利益を保障するための活動です。

子どもが抱える生活上の困難や障害は、その子どもの内部にあるのではなく、子ども自身と子どもを取り巻く環境（社会）との関係において生じると考えます。学校や家庭も環境です。子ども自身の病理や問題とみなし、治療や指導をすることよりも、どのような関係性が困難や障害を引き起こしているのかを理解しようとする視点に立ちます。



さらには、子どもの欠点ではなく強みを見出すことで、自らがその強みを発揮し対処できるように働きかけます。

このような見立て（アセスメント）やプランニングはSSWが一人でできるものではなく、より多くの関係者からの情報収集やチームとしての協働が不可欠となります。

校内支援体制づくりやチームとしての組織的な対応の黒子役として、あるいは、学校と関係機関との連携の一助としてご活用ください。

今般のコロナ禍は、私たちを取り巻く環境を一変させ、生活や経済にも大きな影響を及ぼしています。傷つきやすく脆弱さを内包する子ども達への影響も注意深く見守っていく必要があります。

文科省「スクールソーシャルワーカー (SSW) 活用事業」より

<スクールライフサポーター (SLS) >

SLSは小学校の学校現場に配置される千代田区独自の制度として定着し10年目を迎えました。発足当初からの職務として、「いじめの未然防止・早期発見・早期対応」と「保護者へのサポート」が掲げられておりましたが、昨年度より、不登校児童への送迎対応も可能となりました。これらは、SLSのこれまでの貢献に対する学校からの期待感の表れであり、確固とした存在意義が認められた結果です。指導し評価する教師と指導し評価される児童との関係はともすれば上下の関係になりがちであり、児童によっては、緊張し正直に話すことが難しい場合もあります。SLSは教師とは異なる立ち位置で、子どもとナナメの関係を築きながら、子どもたちの成長をサポートする存在です。連絡会を通じて、交流、情報交換、職務に関する課題や改善策について意見交換し、実践力の質的向上を目指していきます。学校訪問では、管理職も交えた面談を通し、校内支援チームの一員であることを再認識するとともに、日々の奮闘と貢献に対する承認の機会になることを期待します。

回	実施日時	連絡会内容	会場
1	7月10日(金)	情報提供、演習、協議、交流	千代田区立教育研究所 7階研修室
2	2学期中	学校訪問による支援現場見学 管理職も交えた個別協議	各小学校 (学校訪問)
3	3月16日(火)	情報提供、演習、協議、交流	(現在調整中)

＜適応指導（白鳥教室）＞

白鳥教室は、学校に行けない子どもが安心して過ごせるための「心の居場所」です。本教室では、一人一人の個性を尊重しながら、様々な活動を通して子どもたちの自主性や社会性を育てています。

【活動内容】

- 個々の子どもの習熟の程度に応じた学習
- 簡単なスポーツや創作、植物を育てるなどの活動
- 談話やゲームなど、子ども同士のコミュニケーションを図る活動
- 心配事や悩みなどの相談



【白鳥教室の登録について】

昨年度より白鳥教室は登録制になり、手続きを簡素化しました。昨年度は小学生8名、中学生6名が利用しており、特に小学生の利用が増えています。

白鳥教室への登録を希望される場合は、まず保護者が白鳥教室に直接連絡をします。白鳥教室の指導員と面談を行い、白鳥教室での過ごし方や登録手続きの説明を行います。その後、学校と連携の上、登録完了となります。

【今年度の様子】

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で子どもが来られない状況が続いていましたが、6月の学校再開と同時に、昨年度から利用している子どもたちが徐々に通室を始めました。白鳥教室では、換気や手を触れる場所等の消毒を徹底し、感染予防のための指導も行いながら、子どもたちが安心して過ごせるように努めています。

Ⅳ 支 援

＜学校経営支援＞

長期の休校から学校が再開され、子どもたちは期待と不安の中で1学期を過ごしました。一方、学校や教職員にとってもコロナ禍への対応は初めての経験であり、各学年学級経営や指導計画の練り直しなどに加え、感染症対策等々もあり、その負担は大きいものがあります。

このような状況も踏まえ、本年度は次のような働きかけを通して各校園を支援していきます。

【経験者教員等への働きかけ】

初めて本区に異動してきた教員、すでに本区での経験を積み重ねている教員を対象にした支援をしていきます。教育研究専門員による授業観察と協議等を通して、当該の教員が抱える課題を明らかにし、その解決の糸口を探っていきます。さらに、自ら課題をもち、自立できるよう働きかけます。

【産・育休代替教員への働きかけ】

本区では、12名（令和2年6月1日現在、幼2名・小7名・中3名）が各校園の一員として活躍しています。しかしながら、研修を受ける機会が限られているため、子どもたちとの関わり方や授業の進め方など、悩みを抱えてしまう事例も見受けられます。日常の授業や教育活動を振り返り、自らの指導力を高めるためにも、ご活用くだされば幸いです。

なお、いずれの場合も各校園長からの要請が必要になります。まずは担当まで、ご連絡ください。

V 教育情報

<教育情報資料の収集・保管>

東京都市区町村教育委員会や行政機関等で刊行された冊子や要覧の他、都内各幼稚園・こども園、小中学校から送られてきた研究紀要やリーフレット、教育に関する情報誌等の教育情報資料を分類・整理し、情報資料室で保管しています。また、平成28年度より、平成18年度からの「教育情報資料目録」を、千代田区ホームページ <http://www.city.chiyoda.lg.jp/>（千代田区→子育て・教育→教育活動→千代田区立教育研究所→情報資料室・教科書センター）にアップしました。その他、教育専門月刊誌等も保管し、「教育情報資料目録」に掲載された教育情報資料とともに閲覧できるようにしています。

情報資料室の資料は、本研究所の開所日の9:30~16:30の間（土・日・祝日及び年末年始は閉所）、閲覧できます。

<教科書センター・教科書展示>

教育研究所は、千代田区教科書センターとしての役割も担っています。情報資料室に、区内各小学校・中学校・中等教育学校で使用している教科用図書（教科書）をそろえてあります。資料等については、事前に連絡をいただくと円滑に閲覧することができます。

なお、今年度の教科書展示会は、令和2年6月2日（火）から7月3日（金）までの間、教育研究所情報資料室（9:30~16:30）及び千代田区役所4階404会議室（区役所は日曜日のみ9:00~17:00）で開催されました。

<所報の定期刊行>

「千代田区立教育研究所 所報」を年2回発行し、事業内容や取組の成果等についてお知らせいたします。同時に、教育委員会の刊行物等にも、教育研究所の事業内容について掲載していきます。お目通しくださると有難い限りです。

令和2年度 千代田区立教育研究所 所員一覧

研究所所長 佐藤友信（指導課長兼務）



(主任教育研究専門員)

木暮 温



(教育研究専門員)

眞壁 玲子



(教育研究専門員)

額賀 聡



(教育研究専門員)

宇田川 嘉一



(教育研究専門員)

長田 眞理子



(教育研究専門員)

大関 邦子



(スクールソーシャルワーカー)

天農 秀樹



(適応指導員)

新井 聡美



(白鳥教室支援員)

瀬川 徹



(白鳥教室支援員)

松本 澄子

指導課事務局

(教育研究所担当)

係長 林 文則

担当 田中 慎太郎

千代田区立教育研究所

〒101-0048

千代田区神田司町2-16 神田さくら館7階

TEL03-3256-8446